公益財団法人　国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

２０２６年１０月



JINF
Japan Institute
for National Fundamentals

目　　次

1　全　般　・・・3

2　各軍等　・・・4

3　対台湾動向　・・・6

4　対日動向　・・・9

5　南シナ海動向　・・・15

6　軍事交流　・・・17

参考文献　・・・18

中国軍事動向月報：2026 年 10 月

２０２６．１１．６

国家基本問題研究所　研究員　中川真紀

1　全　般

10 月は訓練最盛期であり、加えて日米共同訓練への対応のため日本周辺での海空軍の活動が大幅に増加した。

特に海軍については 28 日以降、3 コ戦区海軍が西太平洋に同時展開しており、今後西太平洋で対抗訓練等を行う可能性がある。更に、27 日に大隅海峡を通過した東部戦区海軍編隊には海警船 1 隻が随伴しており、海警船で監視する海自艦艇に対応し、日本が軍事力により海警船を威嚇したと非難するとともに、日本 EEZ 内で自らの活動を管轄権の行使であると一方的に主張する可能性がある。日本に対するエスカレーションラダーを一つ上昇させたとみて今後の動向に注意が必要。

軍の人事では、29 日に発表された共産党第 20 期中央委員会第 5 次全体会議コミュニケにおいて、16 人の上将・中将の党籍剝奪処分が公表された。

コミュニケでは「党の指導の弱体化・形骸化・希薄化に直面したが、断固たる措置で混乱を正し、長年蔓延っていた弊害を根絶し、党・国家・軍の内部に存在した深刻な潜在的リスクを排除した」と述べており、これまでの解放軍報の社説等の関連報道から見ると、具体的には、①武力による統一に反対する慎重派、②新領域改革に対し、重装備を重視する旧守派、③能力より縁故、性能より賄賂を優先する汚職派、を排除した可能性がある。今回の大量処分公表により、軍の方針が一本化され、能力のある人材による新領域分野での軍事力整備も効率的に進展していく可能性があることから、習主席の下、台湾武力統一に必要な軍事力整備が加速されるであろう。

2　各軍等

（1）全般

○　高官の解任等[1]

10 月 26～29 日、共産党第 20 期中央委員会第 5 次全体会議が開催され、29 日にコミュニケが発表された。同コミュニケにおいて、張昇民中央軍委副主席の中央政治局委員への昇任と以下の 16 人の党籍剝奪処分が公表された。なお、（）内は前職で、筆者が百度から記述。

張又侠　上将（中央政治局委員、中央軍事委員会副主席）
劉振立　上将（中央軍事委員会委員、統合参謀部参謀長）
王仁華　海軍上将（中央軍事委員会政法委員会書記）
劉青松　上将（東部戦区政治委員）
黄銘　　上将（北部戦区司令員）
李橋銘　上将（陸軍司令員）
李偉　　上将（情報支援部隊政治委員）
張紅兵　上将（武装警察部隊政治委員）
汪海江　上将（西部戦区司令員）
張林　　中将（中央軍事委員会後勤保障部部長）
王鵬　　中将（中央軍事委員会訓練管理部部長）
劉発慶　中将（中央軍事委員会国防動員部部長）
楊誠　　中将（新疆軍区政治委員）
鍾紹軍　中将（中央軍事委員会弁公庁主任）
趙暁哲　海軍中将（中央軍事委員会科学技術委員会主任）
方永祥　中将（南部戦区陸軍政治委員、候補中央委員）

【コメント】

コミュニケでは「党の指導の弱体化・形骸化・希薄化に直面したが、断固たる措置で混乱を正し、長年蔓延っていた弊害を根絶し、党・国家・軍の内部に存在した深刻な潜在的リスクを排除した」と述べており、今回党籍剥奪を公表された 16 名は主に軍内で党、即ち習近平中央軍委主席の指導に挑戦したため、排除されたと思われる。

また「党を強くし国を強くする主導権を勝ち得た」「中華民族の偉大な復興を全面的に推進し、たゆまず奮闘する」とも言っており、排除の理由は軍の強化や台湾統一に関する意見の相違と思われる。

これまでの解放軍報の社説等の関連報道から見ると、具体的には、①武力による統一に反対する慎重派、②新領域改革に対し、重装備を重視する旧守派、③能力より縁故、性能より賄賂を優先する汚職派、を排除した可能性がある。

今回の大量処分公表により、軍の方針が一本化され、能力のある人材による新領域分野での軍事力整備も効率的に進展していく可能性があることから、習主席の下、台湾武力統一に必要な軍事力整備が加速されるであろう。

(3) 海軍

○ 空母遼寧の西太平洋展開訓練[2]

10 月 14 日、海軍は「10 月 14 日、海軍は空母遼寧編隊を編成し、西太平洋の関連海域で展開訓練を実施する。これは年度計画に基づく定例訓練であり、特定の国家や目標を対象としたものではない」と公表。

○ 076 型強襲揚陸艦の無人機発着艦試験成功[3]

10 月 30 日、新華社は「先頃、中国初の 076 型強襲揚陸艦「四川」が艦載型偵察攻撃ステルス無人機「攻撃-21」の発着艦試験に初成功した。」と報道。

「四川」(艦番号 51) は新型強襲揚陸艦の第一号であり、2024 年 12 月 27 日に進水し、2025 年 11 月以降、海上試験を行っている。全自動着艦誘導システム、新型総合動力システム、電磁カタパルト、着艦制動装置などを搭載し、固定翼 UAV、ヘリコプター、水陸両用装備などを搭載可能である。

海軍艦艇における衛生支援協同訓練

解放軍報20260924「海軍軍医大学某訓練基地が遠海衛生支援訓練モデルを探求」

○ 海軍軍医大学某基地訓練基地が、軍病院・海軍艦艇（筆者注：南部戦区）と合同で「三段階治療ユニット」遠海医療支援訓練を実施

○ 負傷者をトリアージ後に①戦闘艦艇での応急処置→②補給艦での簡易治療→③病院船での専門治療と三段階で後送

央視新聞20261022「統合衛生支援演習」

○ 海軍軍医大学第905医院と強襲揚陸艦「安徽」（筆者注：病院・艦艇共東部戦区）が、衛生支援演習を実施

○ 海水浸水による負傷、銃創、火傷等の海上戦闘時の治療を重視し、各部門がトリアージ、外科手術、重傷者治療等を演練



（出典：央視新聞20261022）

○ これまでも軍医大学の参加する艦上衛生支援訓練は実施されてきたが、病院船や実習船での訓練が主であったものが、本年に入り実動部隊の艦艇との協同訓練報道が増加

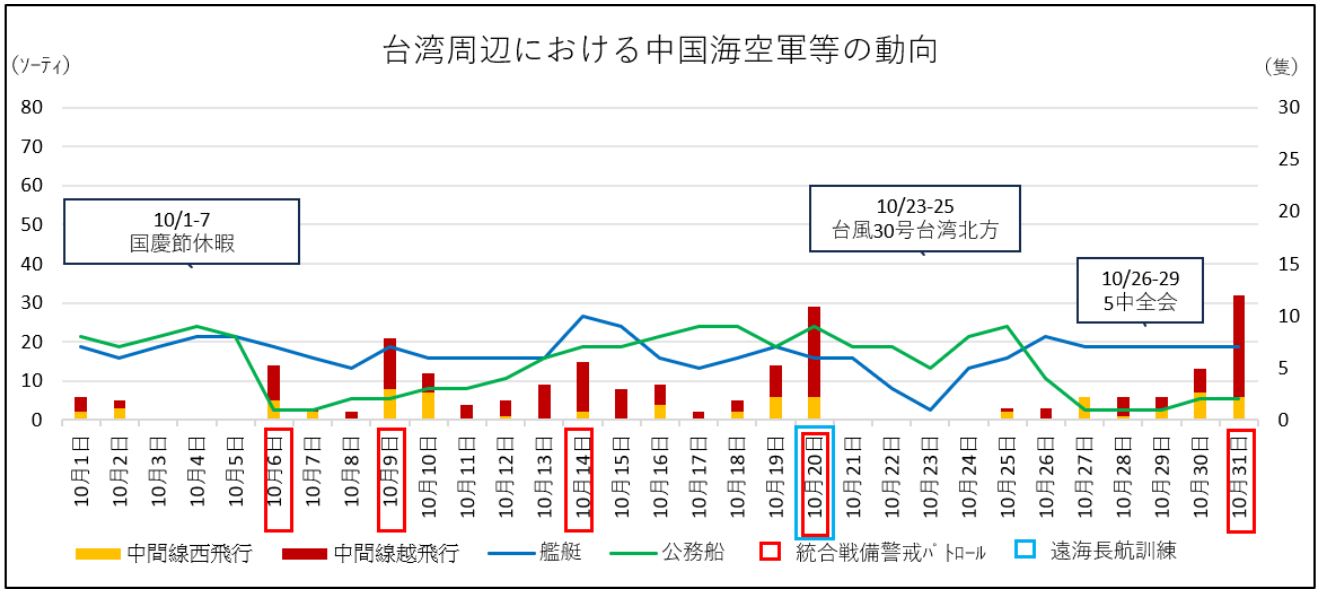
○ 訓練を実施した南部戦区は南シナ海を、東部戦区は東シナ海を担当しており、それぞれ担当海域での作戦を見据え、実戦的な衛生支援訓練を加速させている可能性

○ 一般的に有事の際、軍の教育機関は作戦段階と規模に応じて教育を中止し隊員を作戦部隊に配属させる。9月以降の訓練は中国の軍医大学がその配属計画に従い戦区海軍と協同訓練を実施、もしくは実施のための検証等をしているとすれば、中国軍の戦備整備が作戦正面だけでなく、後方支援でも着実に進んでいる可能性がある

3　対台湾動向

（1） 台湾周辺での軍の活動状況

○　中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍等の動向



（資料源：中華民国国防部 HP を基に作成）

10 月は中国軍機延べソーティー232（内、中間線超えが延べ 159）、中国艦艇延べ 198 隻、公務船延べ 165 隻が確認。1 日における軍用機最大確認数は 32 ソーティー、最大中間線超え 26 ソーティー、海空統合戦備警戒パトロール 5 回、遠海長航訓練 1 回であった。

6、9、14 日のパトロールには Y-8 電子戦機が、20 日には H-6 爆撃機が、31 日には YY-20 空中給油機が参加した。空中給油機の参加は 6 月 21 日以来である。

【コメント】

台湾海峡における公務船の確認数はこの様式で統計を発表している 2024 年以降で最大であった。台風避退で台湾海峡に多くの海警船が集まったのに加え、次頁で示すように海洋調査船の活動が活発化したためと思われる。

また、18 日には台湾東部、南部、南西部、東沙島周辺海域の多地域で海警船や海洋調査船が一斉に連携した行動を採っており、海洋調査の目的以外に、台湾海巡署の対応能力等を確認する目的もあった可能性がある。

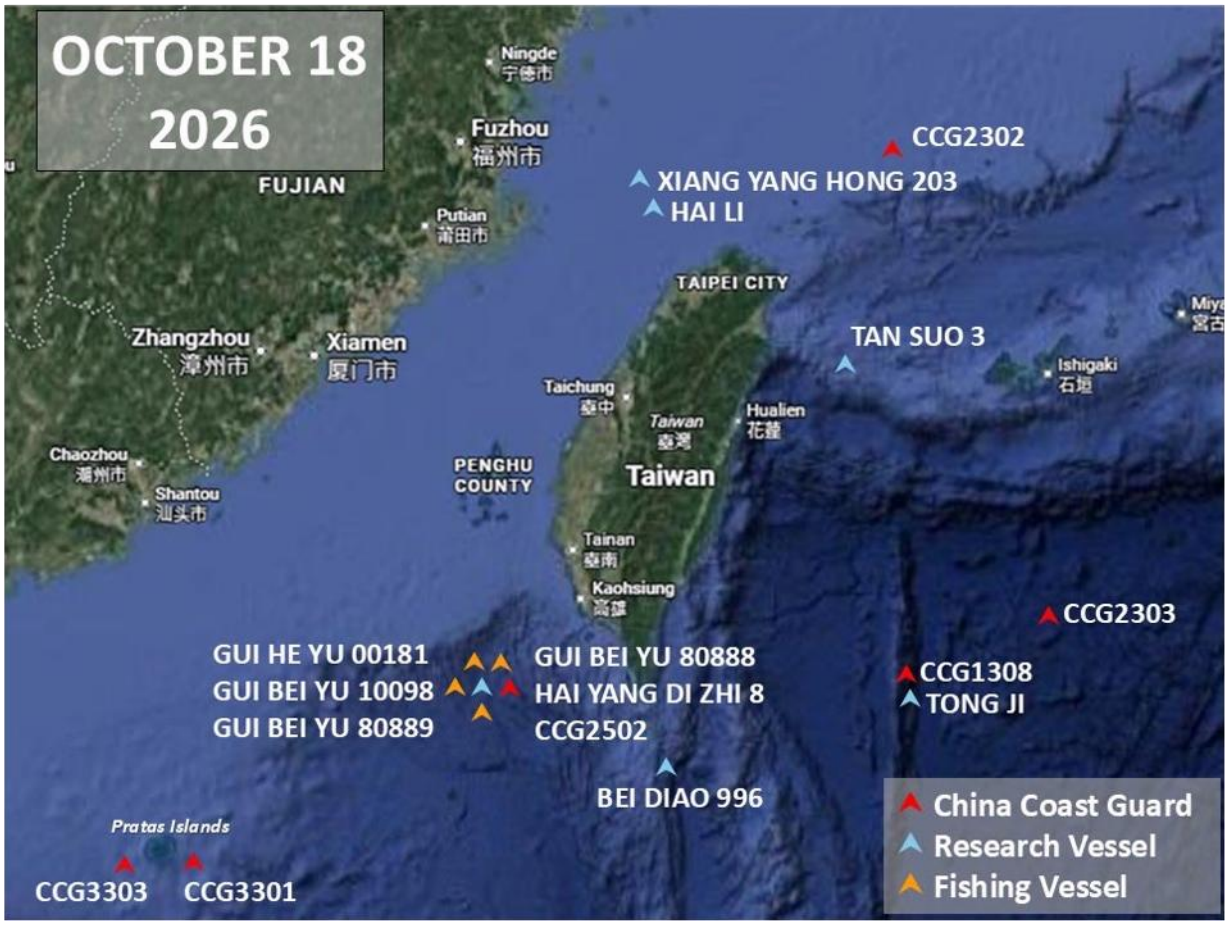
○　海洋調査船の動向[4]

10 月 18 日、海巡署は「18 日、中国が海警船や調査船を含む 12 隻、漁船 4 隻を投入し、台湾東部、南部、南西部、東沙島周辺海域の多地域で一斉に連携し、グレーゾーンにおける海上ハラスメント作戦を実施した」と公表。

海巡署によれば、以下の行動に対し、海巡署巡視船が対応し、制限水域から退去させた。

1. 花蓮東方海域：調査船「探索 3 号」が制限水域に侵入
2. 屏東県鵝鑾鼻南西海域：調査船「北調 996」が制限水域に侵入
3. 高雄港南西海域：調査船「海洋地質 8」と中国の鋼鉄製船体の漁船が台湾漁船の操業を妨害
4. 東沙島周辺海域：海警 3301・3303 が制限水域に侵入

呉釗燮・国家安全会議秘書長がXに投稿した10/18の中国公船等の位置



（出典：https://x.com/josephwutw　20261020）

○　海峡内における中国海警の日本海保への追尾[5]

10 月 23 日、海洋委員会海巡署はメディアの問い合わせに対し、以下のように回答したと公表。

1．台風 30 号の影響により、日本海上保安庁巡視船 8 隻が、22 日 6 時以降、台湾海峡の中間線を北から南下し、澎湖諸島の七美南西沖、台湾の接続水域の外側海域へ移動し、台風避退を行った。これに対し、中国海警船 5 隻が追尾・監視を行ったが、海巡署は情報収集・監視により、関連船舶の動向を全行程にわたり把握した。

2．台湾海峡は国際水域であり、台風避退は人道的かつ国際法の原則に完全に合致するものであるが、中国海警船は、自然災害に乗じて外国公船を追尾・監視し、管轄権や「台湾海峡の内水化」という偽の現象を作り出そうとするのは、航行の自由を著しく侵害するだけでなく、国際的な海事秩序と安全に対する挑戦でもある。

3．海巡署は、日本巡視船の台風避退は、海巡署の法執行権を尊重する手続きの下で行われたものであり、当方の管轄権を十分に尊重していたことを強調する。

（2）金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると 10 月の台湾制限水域への入域は 13 日、30 日の午前・午後の 3 回[6]で、4 隻で 13 日は約 2 時間、30 日は約 3 時間であった。

一方、中国海警東海分局報道官は 10 月 30 日、「10 月 30 日、福建海警は金門付近海域において法に基づく定例法執行パトロールを実施」と公表した[7]。

（3）東沙周辺海域での動向

台湾海巡署によると、10 月の動向は以下の通り。

10 月 16 日 1534，中国海警 3301 と海警 3303 が東沙制限水域に入域し[8]、島を周回し、非常に挑発的な態度を示し、18 日 1200 頃出域した[9]。

10 月 20 日明け方、AIS を切った海警 3102 が接近し、4 時頃に制限水域に入域した[10]。

10 月 31 日 4 時頃、AIS を切った海警 3102 が接近し、8 時頃に制限水域に入域した[11]。

（4）台湾東方海域での動向

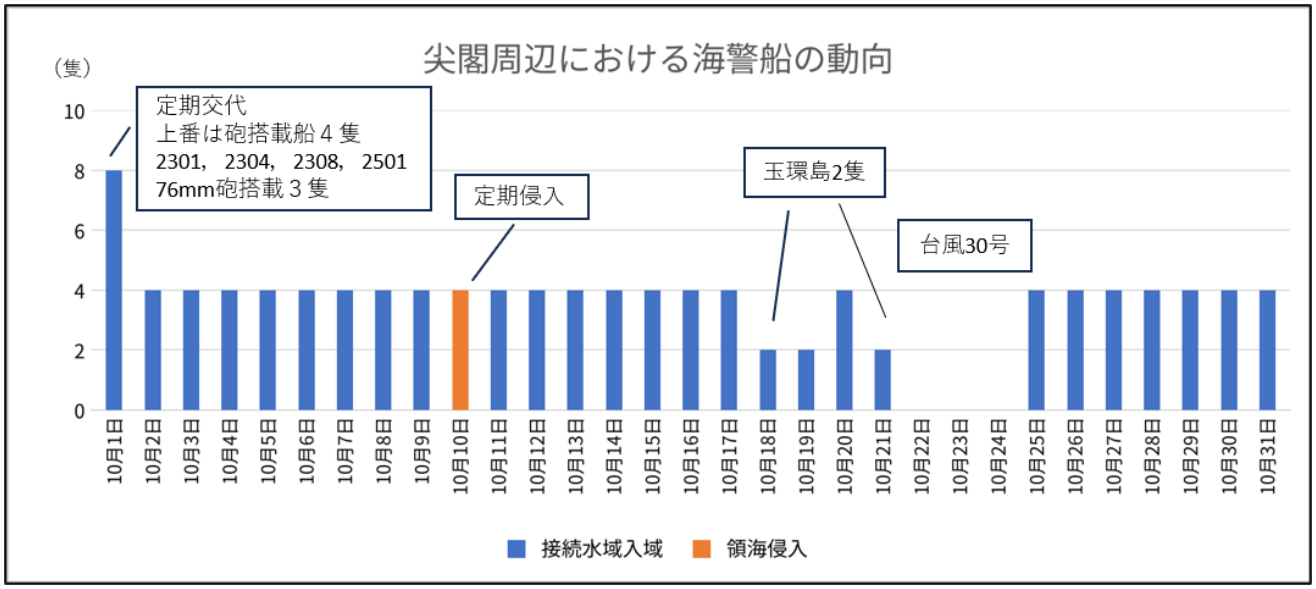
10 月 31 日、中国海警局報道官は「10 月 31 日、中国海警虎獅編隊が台湾東方海域で法に従い、定例法執行パトロールを実施した」と公表[12]。

これに対し、台湾海巡署は 31 日、「海巡署は海警 1308 虎獅艦、2303 梅山艦の全航程を掌握している。」と公表[13]。

4　対日動向

（１） 尖閣諸島周辺での活動状況

○　海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



（資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成）

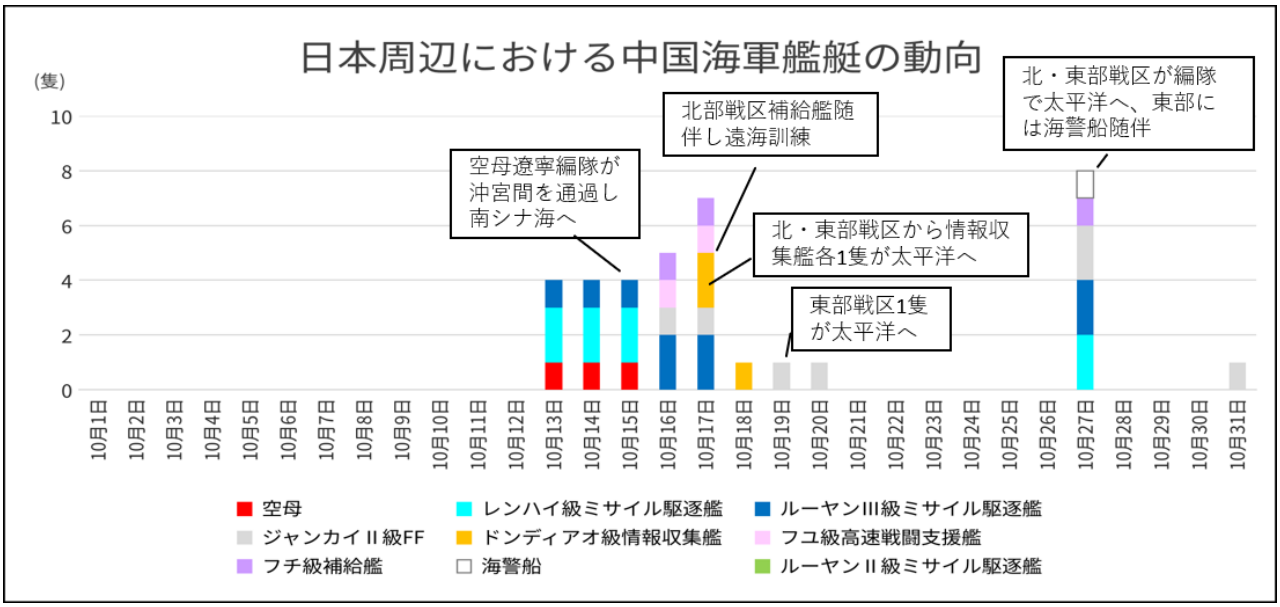
10 月も砲搭載船 4 隻による活動を実施した。

定期交代は 1 日、定期侵入 1 回と変化はなかった。

台風避退の為、22～24 日は 0 隻となった。

（２）日本周辺での軍の活動状況

○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



（資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成）

延べ 36 隻と多数の活動が確認された。

空母「遼寧」からの艦載戦闘機及び艦載ヘリによる発着艦は 14 日に約１０回、確認された。

【コメント】

10 月 14 日、沖縄本島北西の東シナ海上の空域で空自と米空軍の日米共同訓練が実施。

10 月 19～29 日、九州・沖縄で国内における最大規模の実動演習である日米共同統合演習「Keen Sword 27」が実施、これにはオーストラリア軍、カナダ軍、フランス軍、ドイツ軍、オランダ軍、ニュージーランド軍、フィリピン軍も参加。

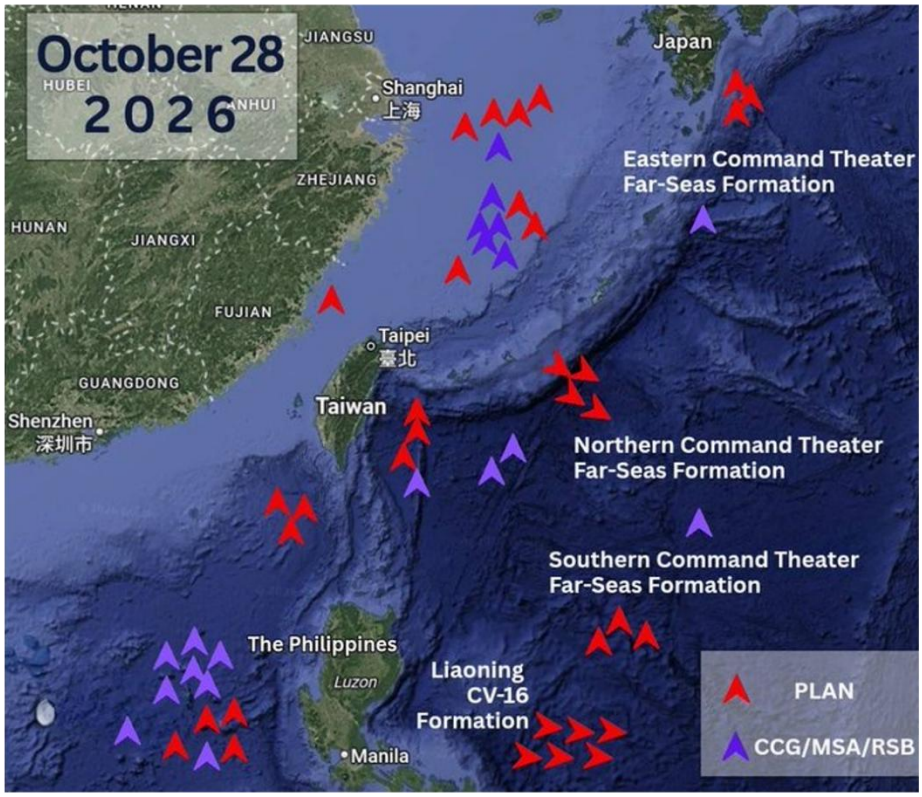
空母遼寧編隊は太平洋においての訓練期間が短いことから、14 日の東シナ海上の空域での日米共同訓練を牽制し、南シナ海に展開した可能性がある。

北・東部戦区海軍もそれぞれ「Keen Sword 27」に併せて、情報収集艦や東部戦区海軍の監視艦艇等を配置し、対応したと見られる。

また、27 日には北部戦区海軍編隊（補給艦随伴）と東部戦区海軍編隊（補給艦は 11 月 2 日に太平洋進出）がそれぞれ別ルートで太平洋に進出している。次頁に台湾の国家安全会議秘書長が投稿したように、比を周回した空母遼寧編隊も 28 日には太平洋に再進出しており、3 コ戦区海軍が西太平洋に同時展開した。「Keen Sword 27」対応後は西太平洋で対抗訓練等を行う可能性もある。

この際、東部戦区に随伴している海警船は監視する海自艦艇に対応し、日本が軍事力により海警船を威嚇したと非難するとともに、日本 EEZ 内で自らの活動を管轄権の行使であると一方的に主張する可能性がある。日本に対するエスカレーションラダーを一つ上昇させたとみて今後の動向に注意が必要。

呉釗燮・国家安全会議秘書長がXに投稿した10/28の中国公船等の位置



（出典：https://x.com/josephwutw　20261028）

海軍艦艇と海警船の太平洋進出

統合幕僚監部報道発表資料20261028（下の写真共に）

10月27日、口永良部島の西約200km海域で、同海域を東進する中国海軍レンハイ級ミサイル駆逐艦（艦番号109）、ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦（133）、ジャンカイⅡ級フリゲート（530）、中国海警船（2307）の計4隻を確認。その後大隅海峡東進し、太平洋に向けて航行

ジャンカイⅡ級フリゲート（艦番号「５３０」）



中国海警船（艦番号「２３０７」）



中国国防部10月定例記者会見での自衛隊の監視を非難する報道官発言20261029

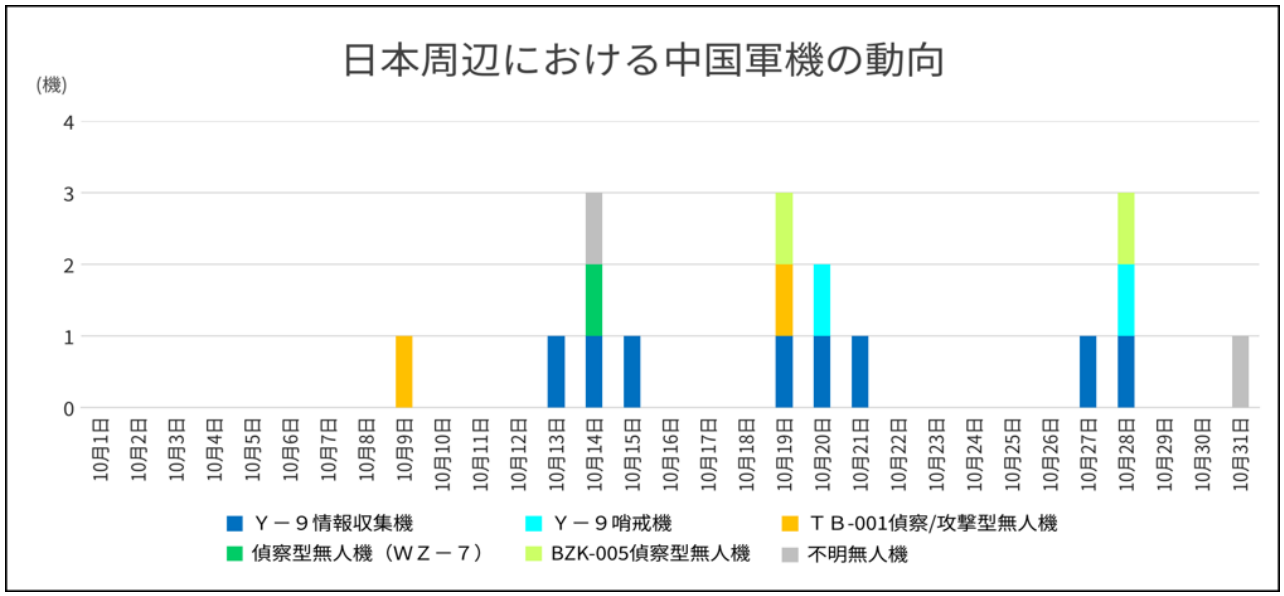
○日本は中露共同訓練等の正当な活動を頻繁に監視・干渉する危険行為を行っている
○日本は空母遼寧の通常の訓練を常に監視し、誇張して喧伝し、軍拡の口実を創出している

○ 海警2307はジャンカイⅡ級フリゲートを原型に作られた海軍仕様の海警船で、海軍と編隊行動が可能であり、レンハイ編隊に同行し、太平洋で活動している可能性

○ 海警船はこれまでも海軍の実射訓練時に民間船の統制等を実施してきたと思われるが、海軍と共に太平洋に進出したのを防衛省が公表するのは初。中国は、日本周辺で活動する海空軍への日本の監視を非難しており、海警船を海自の監視艦艇への対応に使う可能性

○ 海警船は監視する海自艦艇に対応し、日本が軍事力により海警船を威嚇したと非難するとともに、日本EEZ内で自らの活動を管轄権の行使であると一方的に主張する可能性がある。日本に対するエスカレーションラダーを一つ上昇させたとみて今後の動向に注意が必要。

○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



（資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成）

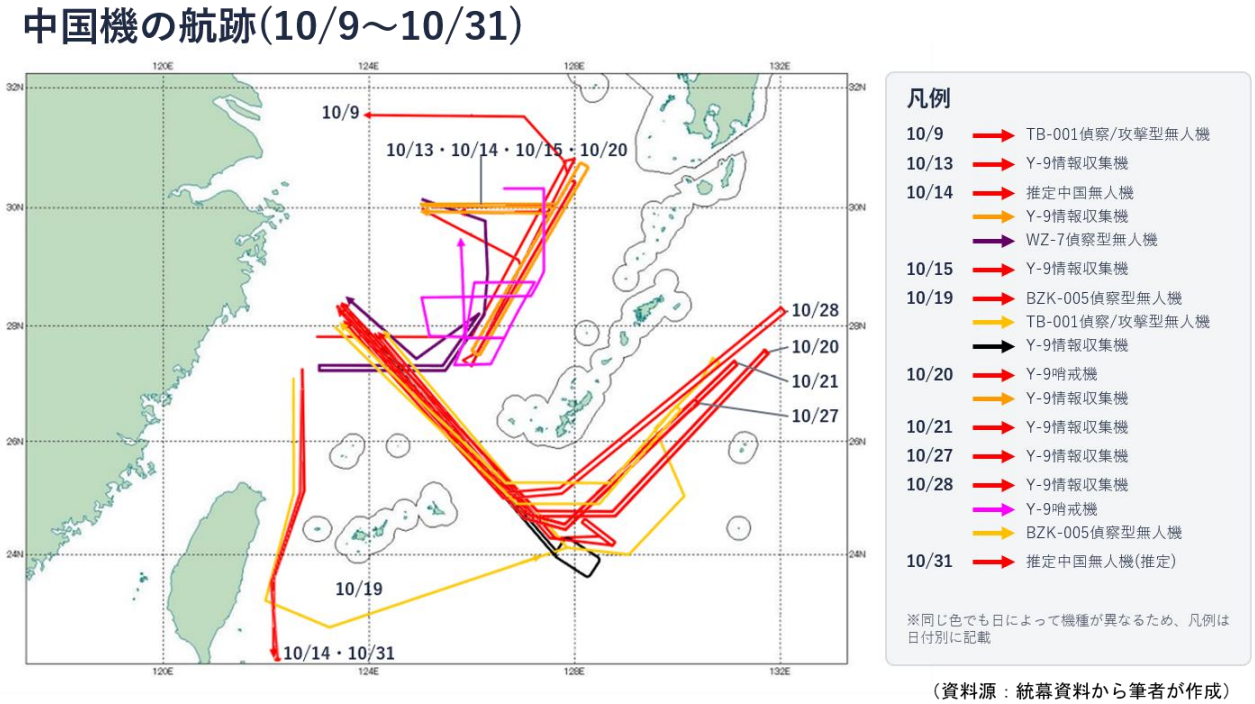
延べ 17 機と多数確認された。

【コメント】

海軍同様、日米共同訓練に対応するため、情報収集機や無人機を飛来させた可能性がある。

下図は 10 月の中国機の航跡を纏めたものであるが、本年 5 月から定期的に Y-9 情報収集機による男女群島南方と沖縄本島沖の飛行は 10 月も 3 回と継続。東シナ海においては中国が一方的に設定した東シナ海防空識別区を網羅するように飛行しており、防空区の実質的な確立を企図している。

また「Keen Sword 27」実施間は太平洋側にも進出し、情報収集を強化した。



（資料源：統幕資料から筆者が作成）

（３）対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○　日本「新型軍国主義」の現実的脅威を警戒　解放軍報対日論文シリーズ２（4/8～）

㉘　戦略的関係を強化し、拡張を絶えず加速[14]　方珂　10/20

㉙　歴史の真相を守り、データポイズニングを許さず[15]　盧昊　中国社会科学院日本研究所総合戦略研究室主任　10/29

○　日本の「防衛力整備計画」草案が暴露する野心[16]　項昊宇　中国国際問題研究院亜太研究所　解放軍報 20261008

草案によると、日本は今後５年間で約７兆円を投じて AI や無人作戦能力の開発を進め、将来の新型戦争の非対称戦で優位を確保しようとしている。注意すべきは、この予算規模が現行計画の６倍にも上るということだ。

○　国防部定例記者会見（10 月 10 日）[17]

◇　安保三文書改正について

日本は第 2 次大戦の敗戦国であり、軍国主義を排除し、戦争遂行能力を解体し、再軍備を禁止する等の敗戦国の義務を履行しなければならない。

新型軍国主義と言う灰色のサイは変異・暴走・加速し、戦後国際秩序への挑戦となっている。

○　国防部定例記者会見（10 月 16 日）[18]

◇　シンガポールと日本 NHK が放映した 731 部隊のドキュメンタリーについて

第二次大戦中、中国侵略した日本軍 731 部隊は非人道的な人体実験と細菌戦を実施し、国際法を著しく侵害する凶悪犯罪を犯し、その非人道性は言葉では言い表せないほどであり、人類文明史上、最も暗い一ページを刻んだ。日本は大いに反省し、真摯に罪を償わなければ、未来に向き合えない。

○　日米共同演習は地域の安定に影響[19]　解放軍報 20261024

10 月 19 日から開始されたキーンソードは初めて与那国に日米の対艦ミサイルや防空ミサイルを展開させ、島嶼から海上を制する戦略を検証しようとしている。

○　日本がウクライナから UAV 購入[20]　解放軍報 20261024

日本がウクライナから、P1-SUN シリーズ UAV を購入する契約を結んだが、この機に西側の軍需協力ネットワークに参入し、戦後の安全保障上の制約を突破しようとしている。

○　国防部定例記者会見（10 月 29 日）[21]

◇　Keen Sword 27 について

日本は共同演習を利用し、中長距離ミサイル等の南西諸島での配備を続けており、再軍備化を加速させている。

◇　日本防衛相の中露共同パトロールは日本への武力示威、と言う発言について

これは日本が所謂「周辺における安全保障上の脅威」を喧伝する常套手段であり、中国に罪をなすりつけるものだ。

◇　台湾海峡で海保巡視船への海警の追尾について

海警は海保巡視船の全航行を監視・警戒し、法に基づき対処している。中国は台湾海峡に主権・主権的権利・管轄権を有している。日本が台風避退を口実に政治的挑発と中国の主権を侵害することに断固として反対する。

◇　日本政府が 10 月末から予定する「作戦様式転換」に関する国民への説明について

日本右翼勢力は民衆を惑わし欺き、再軍備化を加速させようと画策している。

◇　空母遼寧に対する自衛隊の監視について

日本は常に中国の通常の訓練活動を大袈裟に喧伝し、日本の民衆を欺き、国際世論を誘導し、軍拡の口実を作っている。

◇　防衛相の核関連発言について

日本は第 2 次大戦敗戦国であり、軍事力の保有については制限が課され、それが国際社会復帰への政治的法的前提である。

【コメント】

日本関連の記事は 13 件であり、先月の 12 件と同程度であった。

国慶節休暇で解放軍報紙面が減少したのに加え、5 中全会関連の配信が多かったため、増加傾向は見られなかった。

5　南シナ海動向

○　スカボロー礁

◇　南部戦区

◎　10 月 3 日、南部戦区報道官は「10 月 3 日、比の C-208 型機 1 機が中国政府の許可を得ず、スカボロー礁領海に侵入した。南部戦区は海空兵力により、法に基づき追跡監視を行い、警告駆逐した」と公表[22]。

◎　10 月 15 日、情報筋の話として、「10 月 15 日、フィリピン海軍艦艇がスカボロー礁領海付近で艦載ヘリコプターを発進させ、スカボロー礁領空に不法侵入した。南部戦区は海空兵力により、全行程を監視検証し、法に基づき警告・駆逐した。」との報道[23]。

◎　10 月 30 日、南部戦区は「10 月 30 日、南部戦区は海空兵力によりスカボロー礁領海領空及び周辺海空域で戦備警戒パトロールを実施した。」と公表[24]。

◇　海警

◎　10 月 30 日、中国海警局は、「10 月 30 日、海警はスカボロー礁領海及び周辺区域で法執行パトロールを実施した。」と公表[25]。

○　セカンド・トーマス礁

◇　シエラマドレ負傷者の後送

10 月 8 日、中国海警局報道官は「10 月 8 日、比沿岸警備隊巡視船 4409 が違法座礁船の負傷者 1 名を搬送した。人道主義の観点から、中国側は直ちに、比がボートで負傷者を搬送することを許可し、法に基づき対処し、必要な便宜を図った。」と公表[26]

一方、比沿岸警備隊報道官は同日、「10 月 8 日、シエラマドレの比海軍要員の医療搬送中に、中国海警 5306 が放水により妨害し、搬送を 10 時間遅延させた。また海域には他の海警船 3 隻、海上民兵船、海軍艦艇 628 が展開」と X に投稿[27]。

◇　シエラマドレへの物資輸送[28]

10 月 21 日、中国海警局報道官は「10 月 21 日、中国側の許可を経て、比は不法座礁船に生活物資を輸送したが、中国海警は比船に尋問し、全航程を監視した。」と公表。

○　サビナ礁[29]

10 月 20 日、南部戦区海軍報道官は「10 月 20 日未明、米沿岸戦闘艦『チャールストン』は、中国政府の許可なく、南沙諸島サビナ礁付近の海域に侵入、南部戦区海軍は部隊を編成し、法に基づき、追跡・監視した。中国は南沙諸島およびその周辺海域に対し争いようのない主権を有しており、米国の行動は、中国の主権権益を侵害し、海洋安全保障を脅かし、地域の平和と安定を損なうものであり、米国は直ちに関連の活動を中止すべきである。」と公表。

【コメント】

米海軍による南シナ海での航行の自由作戦は 2025 年 8 月以来。

空母遼寧編隊が 10 月 16 日以降、南シナ海に展開して比を周回し、29 日の拡大 ASEAN 国防相会議を前に議長国である比に圧力をかけた可能性があるが、同会議にヘグセス米国防長官を派遣した米が同盟国等に対し対中抑止のコミットメントを実際の行動によって示した格好となった。

6　軍事交流

（1）共同訓練

○　中国・パキスタン陸軍共同訓練「カラコルム-2026」[30]

10 月 14～22 日、中国・パキスタン陸軍共同訓練「カラコルム-2026」が、新疆ウイグル自治区コルラの某訓練基地で実施。これは両国初の陸軍共同訓練であり、高地における対テロ掃討作戦をテーマに訓練。

○　中・インドネシア陸軍対テロ共同訓練「利刃-2026」[31]

10 月 27 日、中・インドネシア陸軍対テロ共同訓練「利刃-2026」の開会式が広州で開催、訓練は 11 月上旬まで実施される。両国は共同編成を組み、専門技術、戦術共同、総合演習の 3 段階で訓練を行う。

（2）軍事交流

○　中国人民解放軍戦略協議代表団の仏独訪問[32]

10 月 21～28 日、中国人民解放軍戦略協議代表団がフランスおよびドイツを訪問し、協議を行った。双方は、両国・両軍関係、国際および地域の安全保障情勢、その他共通の関心事について踏み込んだ意見交換を行い、防衛分野における戦略的意思疎通の強化、信頼醸成増進、交流・協力の拡大を継続していくことで一致した。

【コメント】

中・インドネシア陸軍対テロ共同訓練は 3 回目で、「利刃-2012」以来、14 年ぶりの実施である。

両国は 2025 年に北京で初の外務・防衛閣僚協議 2+2 を開催、第 2 回は本年 2026 年 8 月にジャカルタで開催された。2+2 での防衛協力深化合意を受けての 14 年ぶりの再開であり、中国の比を除く ASEAN 各国との関係強化の一環である。

【参考文献】

1　新華網 20261029
https://www.news.cn/politics/leaders/20261029/3dc769be3bff40aeafcbf957eb4e47bb/c.html
2　中国軍網 20261014
http://www.81.cn/yw_208727/16492959.html
3　中国軍網 20261030
http://www.81.cn/yw_208727/16497156.html
4　海洋委員会海巡署 20261019
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169251&ctNode=650&mp=999
5　海洋委員会海巡署 20261023
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169343&ctNode=650&mp=999
6　海洋委員会海巡署 20261013
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169228&ctNode=650&mp=999
海洋委員会海巡署 20261030
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169373&ctNode=650&mp=999
7　中国海警微信 20261030
https://mp.weixin.qq.com/s/7uDZ7RKPyztXiNTXR6DhwA
8　海洋委員会海巡署 20261019
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169250&ctNode=650&mp=999
9　海洋委員会海巡署 20261019
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169251&ctNode=650&mp=999
10　海洋委員会海巡署 20261020
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169274&ctNode=650&mp=999
11　海洋委員会海巡署 20261031
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169376&ctNode=650&mp=999
12　国防部網 20261031
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16497345.html
13　CNA20261101
https://www.cna.com.tw/news/asoc/202611010015.aspx
14　解放軍報 20261020
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20261020/61ccfb91d7f4464e0c22d42c618a4aa7.pdf
15　解放軍報 20261029
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20261029/b673c1c519c0702e13490ef8564f0c89.pdf
16　解放軍報 20261008
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20261008/352b8cd8e83fc55fc4cf6c307f568fdc.pdf
17　国防部網 20261010
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16491925.html
18　国防部網 20261016

http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16493583.html
19・20　解放軍報 20261024
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20261022/bec2d60bcaa54bf2492d188cd2088785.pdf
21　国防部網 20261029
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16496935.html
22　中国軍網 20261003
http://www.81.cn/yw_208727/16491198.html
23　環球網 20261015
https://mil.huanqiu.com/article/4Tce12odvHr
24　国防部網 20261030
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16497163.html
25　国防部網 20261030
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16497164.html
26　中国海警局 20261008
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202610/t20261008_3248.html
27　X：Jay Tarriela20261008
https://x.com/jaytaryela
28　国防部網 20261021
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16495199.html
29　中国軍網 20261020
http://www.81.cn/yw_208727/16494830.html
30　中国軍網 20261015
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-10-15&paperNumber=04&articleid=988377
31　中国軍網 20261027
http://www.81.cn/yw_208727/16496448.html
32　国防部網 20261028
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16496641.html

中国軍事動向月報　２０２６年１０月

２０２６年１１月６日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093
東京都千代田区平河町２－６－１
平河町ビル５階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。